

令和5年度 自己評価結果公表

社会福祉法人さとに会
幼保連携型認定こども園 さとにこども園

1 さとにこども園の教育保育目標

自分で考えて行動できる子どもの育成

めざすこども像

- 明るく活発で元気なこども
- 親切で友だちと仲良くするこども
- 良く考えて行動するこども

2 本年度の具体的な目標や計画

○「やってみたい」「おもしろそう」と自らが遊べる環境構成を整える

今年度の研究テーマ

自分を表現し、いきいきと遊ぶ子ども

～やってみたい ワクワクするような環境づくり～

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
幼児理解	B	<ul style="list-style-type: none">• 子どもひとりひとりの良さや興味・関心、可能性等の把握に努めると共に、発達に必要な体験を職員間で連携して考えている。• 教育・保育目標や子どもの実態を踏まえ、幼児理解に基づく人間関係の構築とひとりひとりに寄り添った集団づくりをしている。• 保護者や専門機関等と情報を共有し、子どもの育ちを支援できるよう努めている。
保育実践	B	<ul style="list-style-type: none">• 全体的な計画に基づき、発達保障を踏まえ、園や地域の行事等に関連づけたり、小学校等との接続等を考慮しながら指導計画を作成し、実践を振り返ると共に職員との共有に努めている。子どもの実態や課題に応じた集団づくりを職員で共有して行っている。• 季節ならではの年齢に応じた多様な体験など子どもの活動を保障することはできたが、環境構成の工夫、教材研究に努め、子ども

		が主体的に活動できるように整えることが十分できなかった。
職員の 資質向上	B	<ul style="list-style-type: none"> • 年度当初、園内研修（公開保育・安全研修等）を計画して実施した。法人全体で研修を実施し職員の資質向上に努めている。 • 外部講師による園内研修を行うことで幼児の発達を理解し、よりよい援助の在り方などを学び深めることができた。
園運営	A	<ul style="list-style-type: none"> • 職員としての役割を理解し、職員との合意形成を図り、計画的・組織的に連携に取り組んだ。 • 地域社会や関係機関との連携に積極的に進め、保育の実践に生かしている。
食育	A	<ul style="list-style-type: none"> • 毎月9, 19日を《かみかみデー》としてかみかみ君（パペット）を活用して子どもたちに噛むことを意識することができた。 • 地域の方のご厚意により、年長児が稲刈り体験をして、収穫したお米を炊いて2歳児以上がラップおにぎりづくりを体験することができた。 • 少しずつ食材に触れる体験（皮むきなど）を取り入れることができたり、畑で作ったさつまいもは焼き芋大会でおいもを洗ったり、濡れた新聞紙にくるんだり、かまどにおいもを入れるなどの経験をして食べることができたが、玉ねぎやきゅうりなどもクッキングができるようにしていきたい。
保健管理	A	<ul style="list-style-type: none"> • 感染症対策や疾病等の対応について、正しい知識をもとに職員と連携を図りながら健康支援に努めている。 • 適切な温度や湿度を保ちつつ、適宜空気清浄・換気を行い、衛生的な環境を保つよう努めている。
安全管理	B	<ul style="list-style-type: none"> • 毎月の施設内・室外の点検や遊具の点検を行い、安全に過せる様に努めている様々な場合を想定した避難訓練等を行うことで、自然災害等非常時に備えて行動できるようにしている。 • 安全・危機管理マニュアルを作成、理解し、災害時や非常時の避難方法を訓練・把握したり、より安心安全に生活できる環境を工夫したり改善に努めるようにしている。
保護者・地域・ との連携	C	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者の願いや思いを受け止め、職員と連携を図りながら、子どもひとりひとりの発達を理解し必要な体験を考えている。 • コロナがら類となり、参観の機会を複数計画し、園内での様子や友だちとの関わりなどをみてもらうことができた。また、個別懇談を実施し、子どもの育ちについて園と保護者で共有するように心がけた。 • 地域の方との連携はコロナで行事のご案内や近隣の福祉施設との

		<p>交流も中止のままに終わってしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 年長児は、地域の方々のご厚意で稲刈りや大根掘りの体験をすることができた。
子育て支援	A	<ul style="list-style-type: none"> • 参観日など行事を通して園生活の様子を見ていただき、園と家庭で子どもの姿を共有し同じ方向で子育てができるように務めた。 • 行事の中で親子で触れあえる機会を設けて家庭とは違う子どもの姿を見る機会を作ったり、子育ては大変だけど楽しい・子どもがかわいいと思ってもらえるように務めた。 • 未就園児親子に来てもらい、保健師さんの講話や園内の様子を見ていただき、子育ての悩みや入園に向けての参考にってもらう機会を設けた。 • リユース会を通して遊びの場の提供や園内の不要になった衣服や玩具など必要なお家庭に使っていただけるように実施した。

◎項目、及び項目の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

4 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> • 幼保連携型認定こども園に移行したことにより、「幼児期までに育てほしい項目」や「育みたい能力・資質」につながる教育・保育目標への取り組みがより明確になった。 • 子どもが「やってみたい」「おもしろそう」と自ら遊びたいと思えるような環境づくりをめざして、「表現」をテーマにスタートした。園内公開保育を実施することで、園全体で子どもの遊びの中の「資質・能力」の基礎について具体的に話し合い、学びを深めることができた。ひとりひとりの育ちを見極めながら、適切な関わりをしていけるよう努めた。 • コロナが緩和されてきて、行事の見直しを図っていくとともに地域の方との交流や地域行事への参加などを行い、内容の充実を図っていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法

教育保育の質の向上
保育環境の研究・充実

- 本園の教育保育目標を職員間で共通理解し、環境を通して子どもたちが主体的に活動し遊びがより充実するような援助の在り方を話し合い、子どもたちがより主体的・対話的な学びにつながるように取り組んでいく。
- 日々の子どもの興味・関心から教育・保育につなげて、環境を整えていく。それを行事につなげていくよう、職員と教育・保育について話し合う機会を設け実践して、保護者や地域の方に信頼され魅力ある園づくりをめざしていきたい。